

行政視察報告書

総務常任委員会行政視察

平成25年4月16日(火)

)

平成25年4月18日(木)

視察先

鳥取県境港市

・産業及び観光の振興について

及び

兵庫県姫路市

・産業及び観光の振興について

調査事項

京都府京都市

・財産の管理について

視察所感

上記3自治体の施策に関する視察報告書です。

内容は、境港市、姫路市、京都市の3市ごとにそれぞれ記述しました。

平成25年4月23日

町田市議会議長様

委員名 吉田 つとむ

平成23年7月21日(木)までに委員長まで提出をお願いいたします。

行政視察報告書

鳥取県境港市（産業と観光の振興について）2013.4.16（火）

（1）境港市の鬼太郎に会えるまちと言う考え方

視察目的は、観光振興であり、鳥取県境港市の「鬼太郎に会えるまち」を見て回りました。その考え方と成果に敬服しました。

街の通りは「水木しげるロード」と名付けづけられていました。その通りには水木氏の作品である墓場の鬼太郎をはじめとする妖怪のブロンズ像が立ち並んでいました。と言っても、その像が手のひらサイズと言う言葉にふさわしく、意外と細かな像や壁掛け板（レリーフ）が並んでいました。ブロンズ像（彫刻と台座で構成されている）は全部で153体にもなるとのことでした。

通りを歩くと、それらを触ったり、一緒に記念写真を撮りたい気分になってきます。担当の方の説明によれば、子どもさんの背丈と一緒にブロンズ像と写真が撮れることが特徴でした。

この整備の開始は平成4年に始まり、当初8年度までとなっていました。当初、妖怪オブジェは平成8年度の整備事業が終了した時点では80体でスタートしたとのことでした。その後、一般募集を行い、企業や個人を相手に寄付を募ったところ多数の応募者があり、次々と妖怪オブジェが設置され、今日の盛況になっているとのことでした。その通りの商店に関して、旧来は一般の業種であったものが妖怪グッズの販売を兼ねる店舗が増加していたとのこと、それは店舗の名称にも見られました。今日では、門前町の観光店舗が並んだ通りに感じました。例の下駄を専門的に扱っている店もあり、そのすそ野の大きさを感じました。

「水木しげる記念館」が長いロードの中央付近にありました。昔の旅館を改修してできた施設とあって、2階建ての大きなものでした。学術的な目的のいわゆる博物館ではなく、いわゆるメモリアル的な施設とのことでした。そのために、専従の学芸員の方はおらず、多方面の案内に従事する人が働いていました。結果的に、自由に運営できるメリットもあるとのことでした。そこで出てくる鬼太郎は、主に水木しげる氏の作品に忠実で、「墓場鬼太郎」そのものであり、アニメ作品の「ゲゲゲの鬼太郎」の様相はさほどありませんでした。多数の妖怪も同様で、各地の伝承に基づいた登場人物を水木しげる氏がその漫画作品によみがえらせたものでした。

これらが単に商業的に存在しているのではなく、米子市から境港に至る鉄道は、全線で駅名が旧来の駅名を小さく表示し、妖怪名の駅名に全部が変えられていました。一駅だけ見ると滑稽にも感じますが、全駅が妖怪名であることで、外来者が到着した瞬間から異次元世界に来たことを感じさせるものでした。もちろん、列車は全部の車両が鬼太郎であり、目玉おやじであり、ねずみ男であり、猫娘でした。また、車両の外装全体にアニメの鬼太郎の登場人物が一人ずつ描かれ、内部の椅子も同様でした。天井には鬼太郎一族が登場していました。脇役も主役になっている姿がこの漫画の特徴になっていました。

空港名も「米子鬼太郎空港」になっていました。各所に鬼太郎や妖怪にちなんだ名称がありましたが、さすがに街の名前は、境港市と変わりませんでした。さらに、その市役所には漁業の街らしく、水揚げが多いときは玄関頭上に「大漁旗」が掲げられるとのことでしたが、この日も「大漁旗」が掲げられていました。

行政視察報告書

街が一丸になって、鬼太郎の街、妖怪の都市になってきたこの背景を、関心がある人が忠実にたどることができたならば、一つの研究になるし、学問として成立するのではないのでしょうか。

(2) 境港市に出来て、町田市が出来ないこと（漫画の世界）

総務常任委員会の視察で訪れた境港市は、漫画のゲゲゲの鬼太郎の街であり、妖怪の都市でした。もちろん、これを住民が一体になって受け入れるには大きな抵抗が合ったことでしょう。視察訪問の場合は、そのプロセスを学ぶことが最も重要な課題でしょう。

境港市は水産業が大いに盛んですが、他の産業では全国的なレベルを超える分野には目立ったものはさほど見当たらないと言えましょう。しかし、わずか人口3万6千人の小都市でありながら、来訪者には人の行きかう姿が目立った場所でした。4月中旬のウィークデイにもかかわらず、そこそこの人があり、特に若者の姿が目立ちました。それは、水木しげるロードの来訪者が優に年間100万人を超えることで明らかでした。TVでゲゲゲの鬼太郎がアニメで人気があり、NHKの朝ドラで「ゲゲゲの女房」が大ヒットしたことがあったとしても、現地に訪れてみると街中が妖怪都市に転換してしまっていることが人引き付ける要因でしょう。現在もそれに留まらず、絶えず、その取り組みが進展していました。まず、交通機関では、空港が米子鬼太郎空港であり、鉄道のJR境港線の全駅は妖怪の名称となっており、全列車の車両がその内外に鬼太郎やその登場人物のキャラクターで覆われています。市内のバスやタクシーも鬼太郎であり、沖の島へのフェリーも鬼太郎やねずみ男がトレードマーク的に登場しています。航空自衛隊美保基地の航空機にも鬼太郎が登場するほどです。

祭りも、多種多様に鬼太郎に関連する物があり、特産のカニ感謝祭は水木しげるロードを仮装してパレードをした後、そのカニを妖怪神社に奉納する形の祭りになっていました。

まさに、妖怪のテーマパークならぬ、ゲゲゲの鬼太郎をメインとする妖怪のテーマ都市に転換しています。

果たして、町田市でこれが別のキャラクターによる事業が可能かということ、瞬時に無理といえましょう。それは、漫画家の水木しげる氏はその故郷をこよなく愛していること、そのキャラクターの著作権を有する水木プロダクションと境港市やその地域が友好関係を長く続けていること、何より、住民が郷里の出身漫画家を尊敬愛していることがあるでしょう。

町田市は多数の作家、芸術家、音楽家、漫画家にゆかりがあります。ただし、これらの人たちが市民がそこまで尊敬愛しているかと言うと、残念ながらそうとは言いがたいと思っています。私が推奨したい人物に、世界に有名なキャラクターであるポケモン作家の田尻智氏がありますが、田尻智さんは幼少期から青年期まで町田市の団地に居住し、そこでその才能を開花させたにもかかわらず、行政を含めて、その偉業を誇りにしたとする状況が皆無です。

思うに、田尻智氏の偉業に関して、今後、教育施設、機関でまず、その評価を広げる実践が優先されるべきだと痛感しています。

行政視察報告書

兵庫県姫路市（産業と観光の振興について）2013.4.17（水）

（1）観光都市とも言える姫路市を訪ね、大改装中の姫路城に入る

総務常任委員会の視察で、観光都市とも言える姫路市を訪ね、大改装中の姫路城に入りました。

姫路市は名城の誉れ高い姫路城を擁し、観光施策が進んだ都市です。観光コンベンション協会の設立やフィルムコミッションの推進も目立っていました。とても、町田市が追随できるものとは思えませんが、その一端を学ばせていただきたいと考える次第です。

まずは、50年ぶりの大改装中の姫路城に関してですが、この特徴は改装を行ないながら、その様子を直接見ることが出来るようにしたことです。

姫路城には、天守閣まですっぽりかぶさる大きな覆いがかかり、その建物が一体的に修復されていました。見学者はエレベーターで最上階に上がり、天守閣から順に下層階まで建物のそばで工事の進行状況を見ることが出来ました。今までに経験したことがない手法でした。*中国を訪れた際、秦の始皇帝の兵馬俑の発掘がこれに似た方法でした。大きな体育館のような外装で、中には地面を手彫りで掘り起こして、遺跡が発掘されていました。長い時間をかけ、その工程自体を見学させるものでした。この姫路城の改装はそこまで時間をかけたものではないでしょうが、歴史遺産と人がどのように接するかを考えさせるものでした。

様々の研究の下、世界遺産にも登録されたこの歴史建造物を忠実に修復するプロセスの一日に立ち会えたことは幸いでした。なお、この日聞いた中で珍しかったのは、身体障がい者の方が車椅子で天守閣のそばまで見学できていたことでした。通常は元来、城や天守閣に至る道は険しく、障がい者の人がそばまで至ることは難しいことでしたが、この時期、工事の仮設通路を使って、天守閣の下まで来ることが出来ていました。ただし、この様子は、改修期間に限ったことで、先にはまた同じ扱いになっているとのことでした。たまたま、私も車椅子の方に遭遇しましたが、城を見上げてとても喜んでおられました。この喜びは何らかの方法で継続してもらえればよいだろうにと思いました。

（2）町田市と違って、見識ある体制の姫路市のプロジェクト

総務常任委員会の視察において、姫路城で有名な姫路市を訪れました。その姫路城は前述のように、大改装中でした。ただし、以下のように見学はより面白く出来ます。

その一方で、この姫路城で生まれ、その城主となった、黒田官兵衛が NHK の平成 24 年（2014 年）大河ドラマのテーマに選定されたと言うことで、姫路市を上げてその推進をしようと言う「ひめじ官兵衛プロジェクト推進協議会」が 2 月 8 日に設定されていました。

町田市とのかかわりで説明すると、以下の次第でした。

行政視察報告書

なお、先に記して置きますが、町田市の場合、この種の取り組みにおいて、行政が独断で進め、そうした協議会を設立し、議員にはその結果報告を一般に近い形を対象にしたシンポジウムで会場入場者に関係文書も配布しないで行うと言うおそまつさです。

しっかりした体制で取り組まれる、姫路市の「ひめじ官兵衛プロジェクト推進協議会」の役職は次のものでした。

名誉顧問は、黒田家第十六代当主

顧問は、市議会議長、商工会議所会頭、文化交流財団理事長、歴史街道推進協議会会長、ひょうごツリーリズム協会理事長

名誉会長は、兵庫県知事

副会長は、副市長（1名）、県中播磨県民局長、商工会議所副会頭、観光コンベンションビューロー理事長、県立特任教授・播磨学研究所所長

実行委員は、県産業労働部観光監、県中播磨県民副局長、市議会観光対策特別委員会委員長、姫路城イベント実行委員長、商工会議所専務理事、その他諸事業者団体代表（もしくは理事長）、仏閣室議長、神社宮司、鉄道・バス・タクシー業界の社長・代表（あるいは責任者）、ホテル・旅館業界会長（あるいは組合長）、自治会・婦人会・老人クラブ会長、青年会議所理事長、その他様々の団体・業界などの代表者が実行委員、

監事は、会計事務所所長、県産業労働部国際局観光振興課長

参与は、近隣自治体の長となっていました。

私が内容を尋ねると、説明の方がその場で、その他、このリストに入っていない団体にも、参加希望があり、今後の参入があると明白に説明されました。* 町田市の場合、本会議の私の質問において、そうした協議会役員編成の事後策の方針説明さえ、所管の部長では出来ませんでした。情けない限りでした。

行政視察報告書

京都府京都市（財産の管理において） 2013.4.18（木）

京都市役所を訪ね、市の財産管理の中で、学校跡地の利用に関する視察を行いました。ご他聞に漏れず、大都市の京都市であっても中心部の児童が減少し、学校の統廃合が進んでいました。*（注） 町田市の場合は、中心部と言うより団地地区が同様な傾向です。

その京都市中心部の3区の10小学校跡地において、他の目的の活用が行なわれていました。高齢者施設の場合は建物の造り替え、京都芸術センターでは既存施設の利用、京都マンガミュージアムの場合は既存施設の改修活用などの方法でした。

その他にも19ヶ所の小学校跡地において、その活用が期待されているところでした。訪問した際の質疑によって分かったことは、それらの一部利用として、児童館や発達障害児童の対応施設などに活用されていました。ただし、その大半はこれから民間活用などの施策が推進されているところでした。

京都の場合は全国的に小学校が設置された時代より前に、既に明治2年から地域で造った学校がそれぞれにあったとのことでした。今日では、人口の一部中心部回帰と言う減少があり、「御所南小」においては統合後復帰の状況になっているとのことでした。跡地活用の成果では、前術の10施設以外において、小・中学校のクラブ活動、インターナショナルスクール、障害者福祉施設、自治連合会など、公益性を考えた暫定利用があり、他に、集会所や消防器具置場などコミュニティ活動に供されているとのことでした。

ただし、今後は京都市の事業として活用されるもの以外に民間活力の導入、貸付方法の緩和、あるいは普通財産への変更などが今日的な課題になっていました。

また、建物では老朽化や耐震化していない施設があったりして、現実の利用には課題が多いと言うのが現実とされていました。

いずれにしても、大きな変換が必要とされていましたが、公共施設を建設する場合は財源の問題、民間の場合は採用業種の是非が課題になっていました。結果的に、長期間放置されるケースが起きており、建物の再利用がより困難になる事態が想定されていました。

町田市の場合は、学校跡地がそれほど多くなく、統廃合した学校跡地の転用では、公共的な高齢者施設の開設、広域な子ども施設への転換、スポーツ施設への転換で足りるのではないのでしょうか。現実には、それらの要望が多くなっていると思います。